

校長室より⑦ ~「知的好奇心、関心の眼」~

今日も富士宮西高等学校のホームページを御覧いただきまして、誠にありがとうございます。

○つい今しがた、教室に戻る彼らを見送ったばかりです。ほやほやの「やりとり」、これがまた、何とも私にとって嬉しかったものですから、ここでほんの一部だけ、チラッと「再現」してみたいと思います。

場面は「放課後の清掃」。お当番さん（グループ）が、隣の事務室へ来てくれます。

6限目終了のチャイムが鳴り、教室へ戻る生徒の足音が、いつものように校長室まで届きます。その時でした。今日も一日の授業が終わった、微笑ましい、安堵のやりとりに交じって、私の耳に届いたのは…

「せ ○ き し しか」 「けら ○ けり ける けれ」 …

廊下でのやりとり「古典文法」。これは基礎編のど真ん中、過去の助動詞「き」「けり」の活用表この確認、練習に他なりません。国語科教員としては聞き捨てならない！ということで、清掃を終えた当番グループの皆さんに直接尋ねてみたのです…

「さっき、廊下から聞こえてきたんだけれど… せ ○ き…」 とここまで言いかけた時、彼らの眼が輝きます。（スイッチが入った証しです。）

「せ ○ き し しか！」 「先生は国語の先生だったんですね！」

嬉しかったですね。問い合わせに対する反応。嬉しそうに学びの成果を披露してくれる生徒たち。「28、と頭に入れておくといいよ。過去の き、けり で2つ。完了の つ、ぬ、たり、りこれで4つ。 双方足して早6個、だよね…。」

○この日は午前中、ある先生とのやり取りの中で、「そういえば2年生から3年生にかけて、ぐっと伸びてくる生徒が珍しくないようですね、本校では。」こんな言葉を交わしたところでした。卒業生の様子を遡ってみれば、西高生活後半で、ぐっと「変化=成長」を見せる生徒がかなり見られるのです。この変化。この成長。学習に向かうそれ以前の、生活の中での「心のありよう」に、実は「成長」へのヒントが隠されているのかもしれません。

○もう一つ。こちらは10月の下旬、ある朝のこと。

出勤の際、天気が良ければ、私たちは毎朝、大きく、美しい「富士山」を仰ぐことができます。その日の朝も、実に見事でした。ただし、前日までとは大きく異なるのです。この気づき。この発見！ それは「初冠雪」です。

久方ぶりに頂（いただき）に白化粧が施（ほどこ）された富士山。空の青と頂の白。はっとさせられるほどの美しさ、輝き、お見事です。

この感動が抑えきれない私は、というと…

登校して出会った生徒に思わず「気がついた？」と尋ねます。「白くなったね、今朝は。」

ここまで言ったとき、しっかりとキャッチしてくれました。「初冠雪」に気づくのは勿論、彼女に言わせれば「今年の初冠雪、雪の量がいつもと比べたら、少し多く感じる」のだそうです…。

普段から周りに眼を向ける=「関心の眼」を持っている=「ゆとり」を持っている証し。

登校時の（おそらく予期せぬ、私からの、突然の）「言葉かけ」に対して、ひるむことなく受け止め、瞬時に、正確に、相手の意図をキャッチ。そして言葉をお返しする。そこに何かしら、「ひとこと」を添えながら…。

初冠雪の靈峰から、だけでなく、ラッキーな私は朝早く登校してきた一人の西高生とのやりとりからも、「さわやかな気持ち」にさせられました。自然にこうしたやりとりを交わせる人は、大人社会のどこに進んだとしても、周りの先輩方から愛される、大事にしてもらえるのだろうなと感じます。

○10月25日（土）学校公開日（授業公開）、多数の御来校、誠にありがとうございました。
説明会の会場でお会いできた中3生のみなさん。コツコツ、続けていますか？

あの日のお話、チラッと、ここで復習してみましょう…。

中学3年生の皆さん。保護者の皆様。高校選択は「合格内定で終わり」ではありません。入学後の3年間、安心して学ぶ、安心して汗を流す、安心して高校生活を送る。一番大事な「安心」が、西高にはあります。君らを待っています。3月の受検当日までに、まだまだ君らの力は伸びます。高校合格は早ければよい、ものではありません。初志貫徹。気持ちを強く持って、簡単にあきらめずに、できる範囲でコツコツ準備できた君らなら、きっと後悔しない選択（学校選び）ができるでしょう。多くの先輩西高生、先生方、関係の皆様と共に、西高で待っています！

何か尋ねたいことがあれば、西高は個別質問OK、お気軽にお電話を。お待ちしております。

○「知を求め 他を思いやり 躍進せよ」西高生への願い。これが「普段の姿」に見えてくる。
西高生諸君の優しさと、仲間に学ぶ謙虚さ。実にすがすがしいものです。 感謝